

研究発表もうしこみフォーム

氏名：風戸真理*、バトゥール・ソイルカム（バトゥールが本人名）

氏名のローマ字表記：Dr. Mari Kazato and Dr. Battur Soyilkham

所属：風戸真理（北星学園大学短期大学部）、バトゥール・ソイルカム（Bagatumuruch Co. Ltd）

専門分野：*人類学

発表のタイトル：

移動する災害：モンゴル国東部の越境火災への行政対応より

発表要旨（796字）：

本発表は、モンゴル国東部のロシアとの国境地域において、毎年春から夏の季節風に吹かれてロシアから越境してくる森林・草原火災に注目し、それらに対する地元政府および中央政府の対応を、地方の人びとの生業の特徴（土地利用の方法と生業の季節性）をふまえて記述するものである。

その上で、郡（ソム）内、国内、国外との関係の3つのレベルにおいてみられる葛藤について考察する。第一に、郡内では、火事の進行ルート上に住んでいる人びとと、それ以外の場所に住む人びとの間に消火（火力の抑制および方向転換を含む）活動に対する関心に差異が見られた。第二に、国内では、消火活動は中央政府の非常事態庁が主幹するが、都市からの派遣人員が現地の地理や気象についての知識がないために火災の犠牲になることがあった。他方で、火災の最前線に居住する牧民は自ら地面に防火帯を掘ったり、森でバケツリレーをするなどの消火活動に当たると同時に、都市からの派遣人員の寝食の世話をするという二重の負担を負っていた。第三に、国外との関係では、ドルノド県やスフバートル県の自治体長がロシアおよび中国の隣接する自治体長と定期的な会合を、また国家レベルでもウランバートルおよびモスクワで共同の火災対策が協議されていた。

これまでモンゴル災害研究は雪冷害（ゾド）に焦点を当てて、移動や牧草備蓄をはじめとする遊牧的なレジリエンシーが指摘されてきた。これに対して火災は、それ自体が時に牧民の避難速度を越えて移動するため、消火という積極的な対応が必要となるという特徴がある。とくに越境火災においては、さまざまなレベルで人びとの共同行動やモラルが求められ、ときに利害の不一致もみられた。本発表は、越境災害という視点に立ち、火災をはじめとするゾドや干魃といった自然災害を事例として、モンゴルを中心とする東北アジアの地域的な特性を浮かびあがらせる一事例研究といえるだろう。